

中野区子どもと子育て家庭の実態調査

《概要版》

- (1) 調査対象 令和元年7月23日時点で中野区に在住する0歳～14歳（中学3年生）の就学前児童、小学校低学年（以下、小学生①）、小学校高学年（以下、小学生②）、中学生の各保護者及び小学校高学年、中学生本人
- (2) 調査対象数 18,750世帯（26,250件）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より、対象年齢ごとに無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送法（一部ウェブ回答）
- (5) 有効回答数 子ども 2,017票（有効回答率26.9%）
保護者 7,987票（有効回答率42.6%）
- (6) 調査期間 令和元年8月28日（水）～令和元年9月25日（水）

図表1 有効回答数（有効回答率）

	子ども			保護者			親子マッチング※	
	対象数	回答数	回答率	対象数	回答数	回答率	件数	マッチング率
未就学児保護者				7,500	3,861	51.5%		
小学生①				3,750	1,782	47.5%		
小学生②	3,750	1,075	28.7%	3,750	1,231	32.8%	1,064	28.4%
小学生保護者計				7,500	3,013	40.2%		
中学生	3,750	942	25.1%	3,750	1,113	29.7%	929	24.8%
子ども票全体	7,500	2,017	26.9%					
保護者票全体				18,750	7,987	42.6%		
全体	26,250	10,004	38.1%					

※子ども票と保護者票の両方を回収し、紐付けが行えたものを指す

※各図表の数値については、端数処理の関係上、各項目の割合の合計値が100%とならない場合がある

【本調査における「生活困難」の取り扱いについて】

本調査では、子どもの「生活困難」を以下の3つの要素に基づいて分類した。

①低所得

等価世帯所得※1が厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」から算出される基準※2未満の世帯※3

※1 世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成30年国民生活基礎調査」（所得は平成29年値）の世帯所得の中央値（427万円）を平均世帯人数（2.44人）の平方根で除した値の50%である135.4万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」にて公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較できるものではない

②家計の逼迫

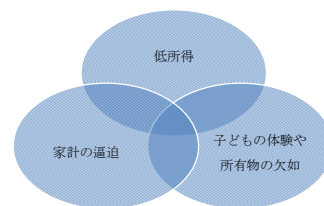
公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当

③子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当

生活困難層	困窮層＋周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

（※詳細はP2参照）



令和2年1月
中野区

1 生活困難度

各年齢層の子どもについて生活困難層の割合を計算したところ、以下の結果となった（図表2）。低所得率は、未就学児1.5%、小学生①1.9%、小学生②2.4%、中学生2.7%と年齢層が上がるにつれて高くなっている。家計の逼迫率は、未就学児5.9%、小学生①5.9%、小学生②5.6%、中学生10.3%と中学生で1割を超える。子どもの体験や所有物の欠如は、全ての年齢層において約5～6%前後となっている。

3つの要素の重なりから、2つ以上の要素に該当する「困窮層」、いずれか1つの要素に該当する「周辺層」の子どもの割合を算出したところ、未就学児においては、困窮層が2.6%、周辺層が8.1%、小学生①においては、困窮層が3.8%、周辺層が7.3%、小学生②においては、困窮層が3.8%、周辺層が7.3%、中学生においては、困窮層5.6%、周辺層9.3%であった。どの年齢層においても、9割弱の子どもは、どの要素にも該当しない「一般層」であった。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に困窮層、周辺層どちらも東京都に比べて中野区の方が低い。3つの要素では、中学生の家計の逼迫率のみ東京都に比べて中野区の方が高かった。

図表2 生活困難層の割合（全体）

		未就学児	小学生①	小学生②		中学生	
				中野区	東京都	中野区	東京都
生活困難層		10.7%	11.1%	11.2%	20.5%	14.9%	21.6%
	困窮層	2.6%	3.8%	3.8%	5.7%	5.6%	7.1%
	周辺層	8.1%	7.3%	7.3%	14.9%	9.3%	14.5%
一般層		89.3%	88.9%	88.8%	79.5%	85.1%	78.4%

		未就学児	小学生①	小学生②		中学生	
				中野区	東京都	中野区	東京都
低所得		1.5%	1.9%	2.4%	11.6%	2.7%	11.6%
家計の逼迫		5.9%	5.9%	5.6%	8.1%	10.3%	7.7%
子どもの体験や所有物の欠如		4.9%	6.3%	5.6%	7.8%	6.6%	11.8%

図表3 生活困難層の分布：世帯タイプ別

(サンプル数)		年齢層	ふたり親 (二世代)	ふたり親 (三世代)	ひとり親 (二世代)	ひとり親 (三世代)
		未就学児	2,266	109	97	34
		小学生①	1,089	102	82	21
		小学生②	694	71	78	16
		中学生	601	68	86	19
生活困難層	困窮層	未就学児	2.2%	2.8%	9.3%	8.8%
		小学生①	2.5%	3.9%	19.5%	9.5%
		小学生②	2.7%	2.8%	10.3%	25.0%
		中学生	3.8%	0.0%	18.6%	21.1%
	周辺層	未就学児	7.0%	11.9%	24.7%	23.5%
		小学生①	6.1%	10.8%	15.9%	23.8%
		小学生②	5.8%	8.5%	16.7%	25.0%
		中学生	8.5%	4.4%	18.6%	10.5%
一般層	未就学児	90.8%	85.3%	66.0%	67.6%	
	小学生①	91.5%	85.3%	64.6%	66.7%	
	小学生②	91.5%	88.7%	73.1%	50.0%	
	中学生	87.7%	95.6%	62.8%	68.4%	

※二世帯：両親またはひとり親と子どもが同居しており、祖父母が同居していない世帯

※三世帯：両親またはひとり親と子ども及び祖父母が同居している世帯

2 生活困窮の状況

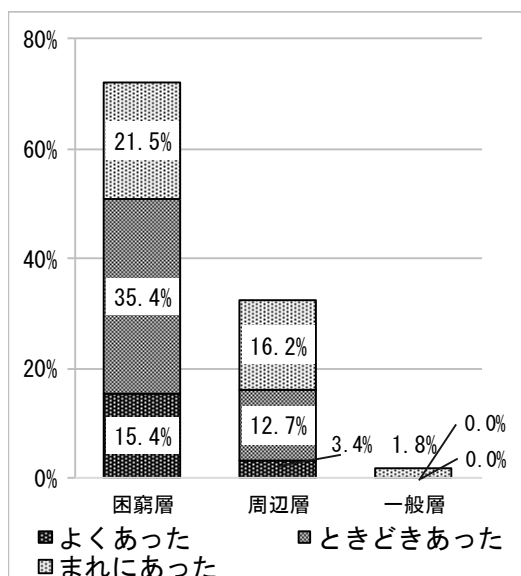
(1) 食料の困窮の経験

生活困難度別に食料の困窮の経験を見ると、生活困難度の識別自体に本設問の項目も入っていることもあり、強い相関がみられる。困窮層においては、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせると全ての年齢層で7割以上の世帯における食料の困窮経験がある。「よくあった」とする世帯に限っても未就学児で15.4%、小学生②で12.1%と1割を超える結果となっており、困窮層では食料が十分に確保できていない。「よくあった」、「ときどきあった」とする世帯は、一般層ではどの年齢層でも0%である。

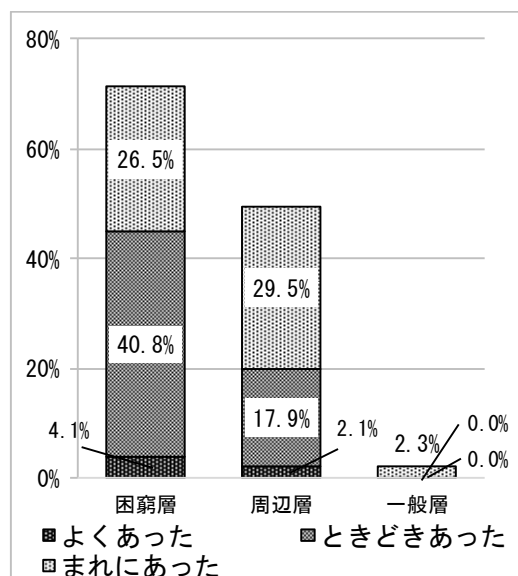
東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に全ての生活困難度で東京都に比べて中野区の方が「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」の合計が高くなっている。

図表4 食料の困窮の経験：生活困難度別¹（小学生②、中学生は東京都と比較）

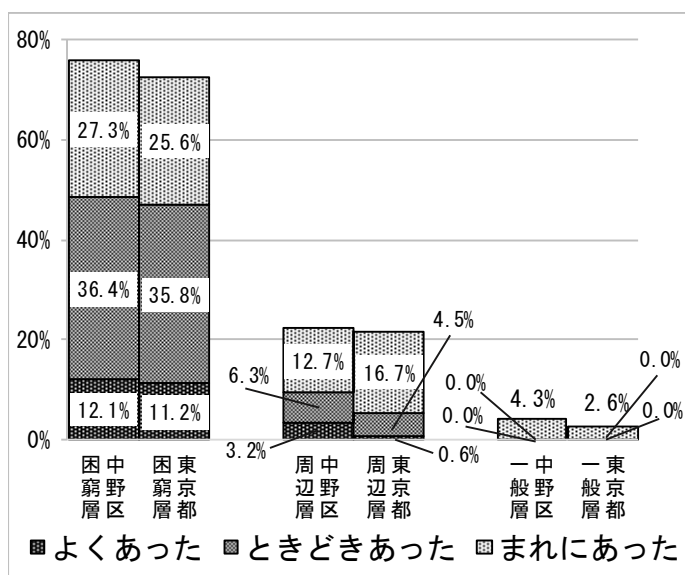
未就学児



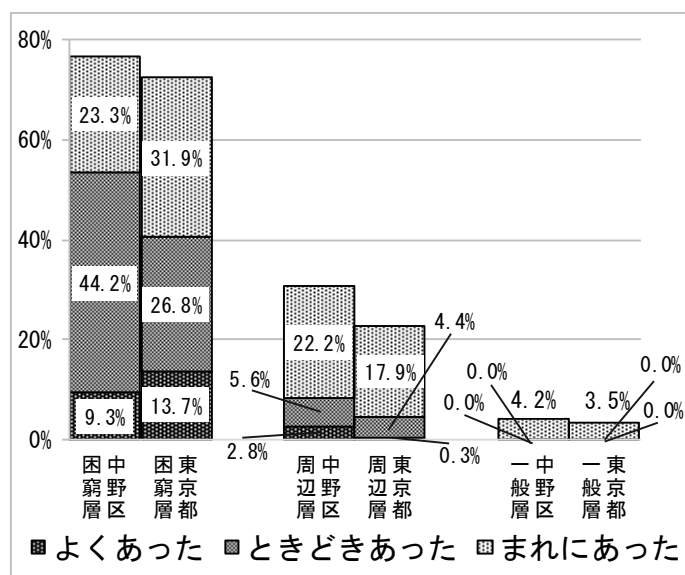
小学生①



中野区小学生② 東京都小学5年生



中野区中学生 東京都中学2年生



¹生活困難度別のサンプル数は以下のとおり。以降、全ての生活困難度別図表は同じ。

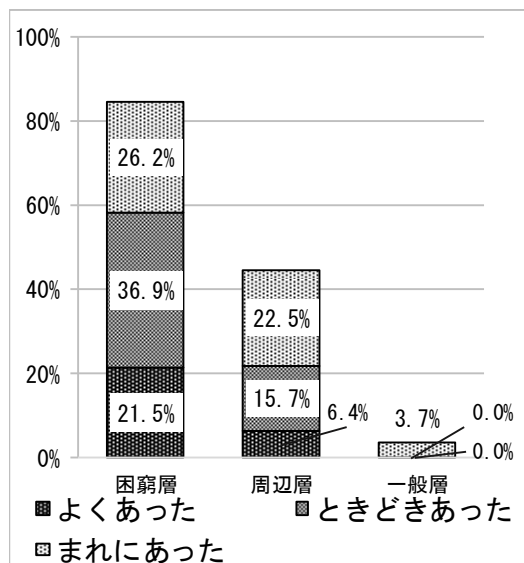
(未就学児) 困窮層 65 周辺層 204 一般層 2,237 (小学生①) 困窮層 49 周辺層 95 一般層 1,151

(小学生②) 困窮層 33 周辺層 63 一般層 763 (中学生) 困窮層 43 周辺層 72 一般層 659

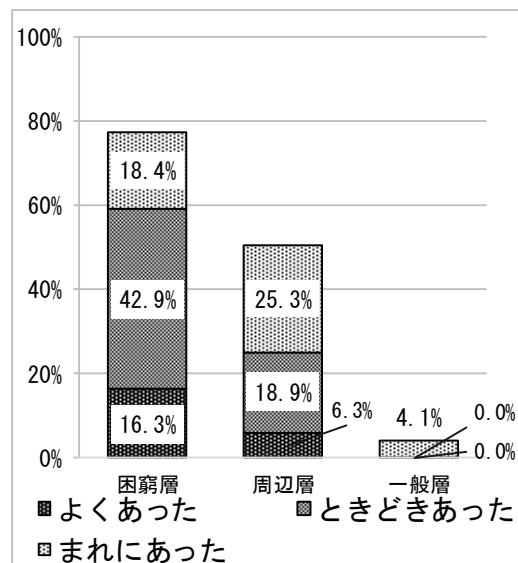
(2) 衣類の困窮の経験

生活困難度別に衣類の困窮の経験を見ると、生活困難度の識別自体に本設問の項目が入っていることもあり、強い相関がみられる。困窮層においては、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせると、小学生①を除く年齢層で8割以上の世帯において衣類の困窮経験があり、小学生①でも8割弱であった。「よくあった」とする世帯に限ると、未就学児で21.5%、小学生①で16.3%、小学生②で18.2%、中学生で30.2%と高い割合となっており、困窮層では衣類が十分に確保できていない傾向にある。「よくあった」、「ときどきあった」とする世帯は、一般層ではどの年齢層でも0%である。

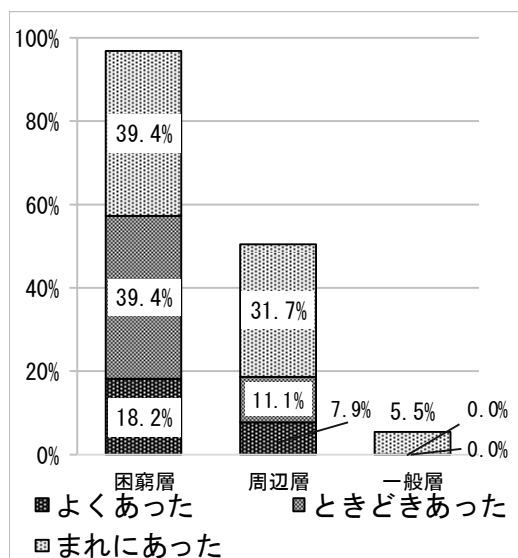
図表5 衣類の困窮の経験：生活困難度別
未就学児



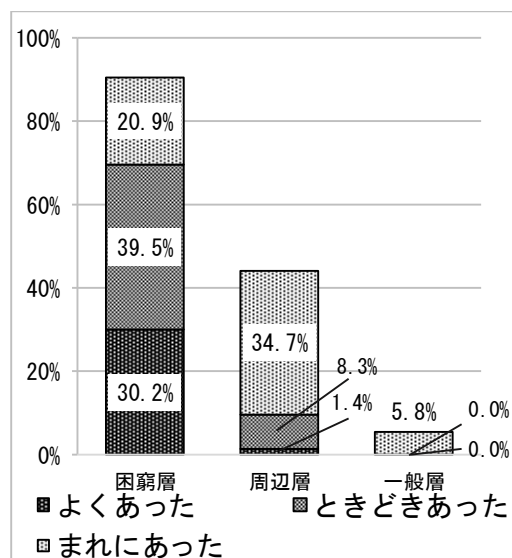
小学生①



小学生②



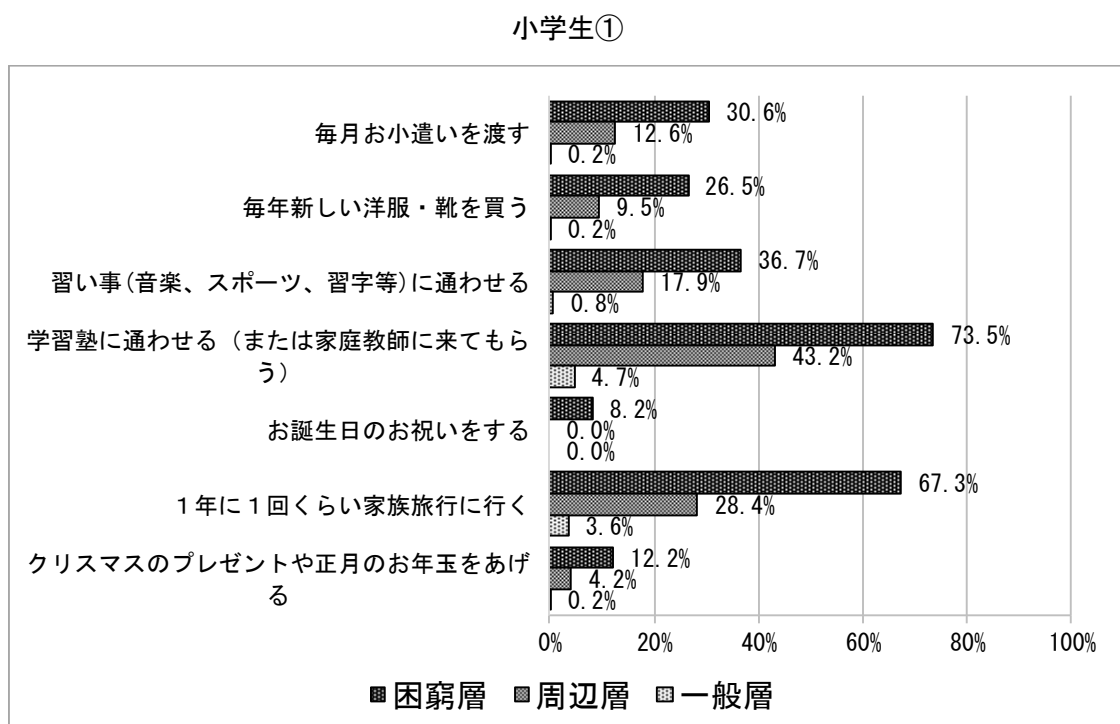
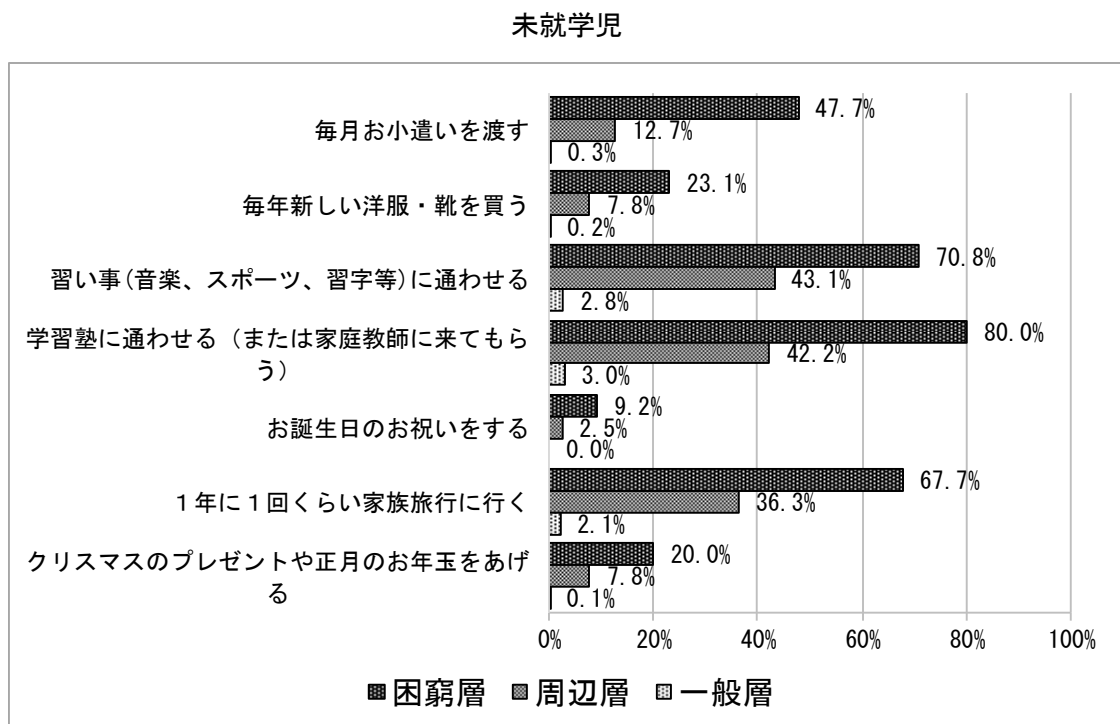
中学生



(3)「経済的にできない」子どものための支出

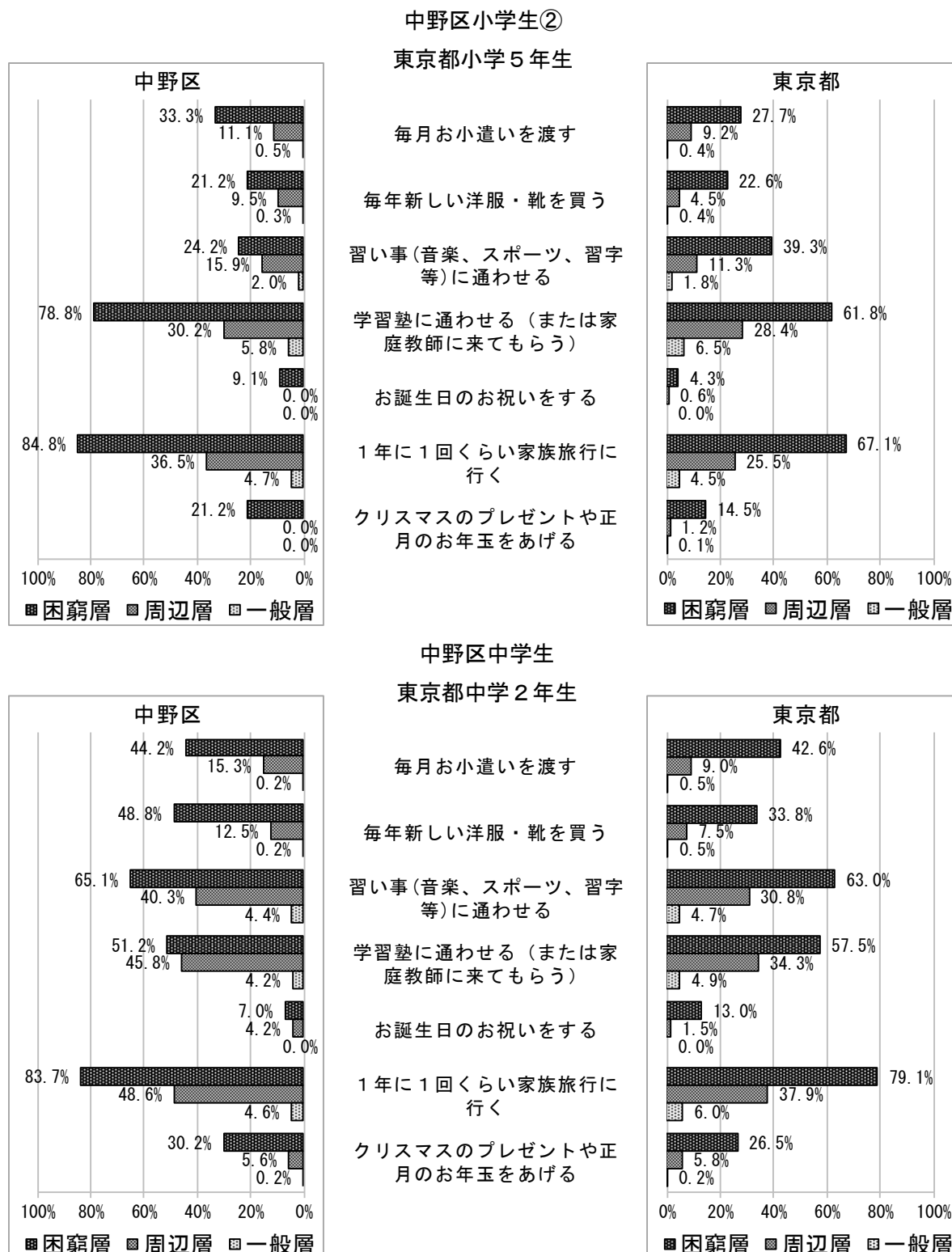
生活困難度別に「経済的にできない」子どものための支出を見ると、全ての年齢層、項目において「経済的にできない」割合は一般層が最も低く0%に近い数値となっているのに対し、困窮層では未就学児、小学生①で「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」が最も高く、小学生②、中学生で「1年に1回くらい家族旅行に行く」が最も高い。また、年齢の高い子どもの方が、生活困難度による差が大きい傾向にある。項目別には、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「毎月お小遣いを渡す」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」などに大きな差がある。

図表6 「経済的にできない」子どものための支出：生活困難度別（未就学児、小学生①）



東京都との比較を見ると、「経済的にできない」割合での小学生②で特に差の大きい項目は、困窮層では「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、周辺層では「1年に1回くらい家族旅行に行く」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層の「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」では中野区に比べて東京都の方が高くなっている。中学生で特に差の大きい項目は、困窮層では「毎年新しい洋服・靴を買う」、周辺層では「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」で東京都に比べて中野区の方が高く、困窮層では「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」、「お誕生日のお祝いをする」で中野区に比べて東京都の方が高くなっている。

図表7 「経済的にできない」子どものための支出：生活困難度別（東京都との比較小学生②、中学生）



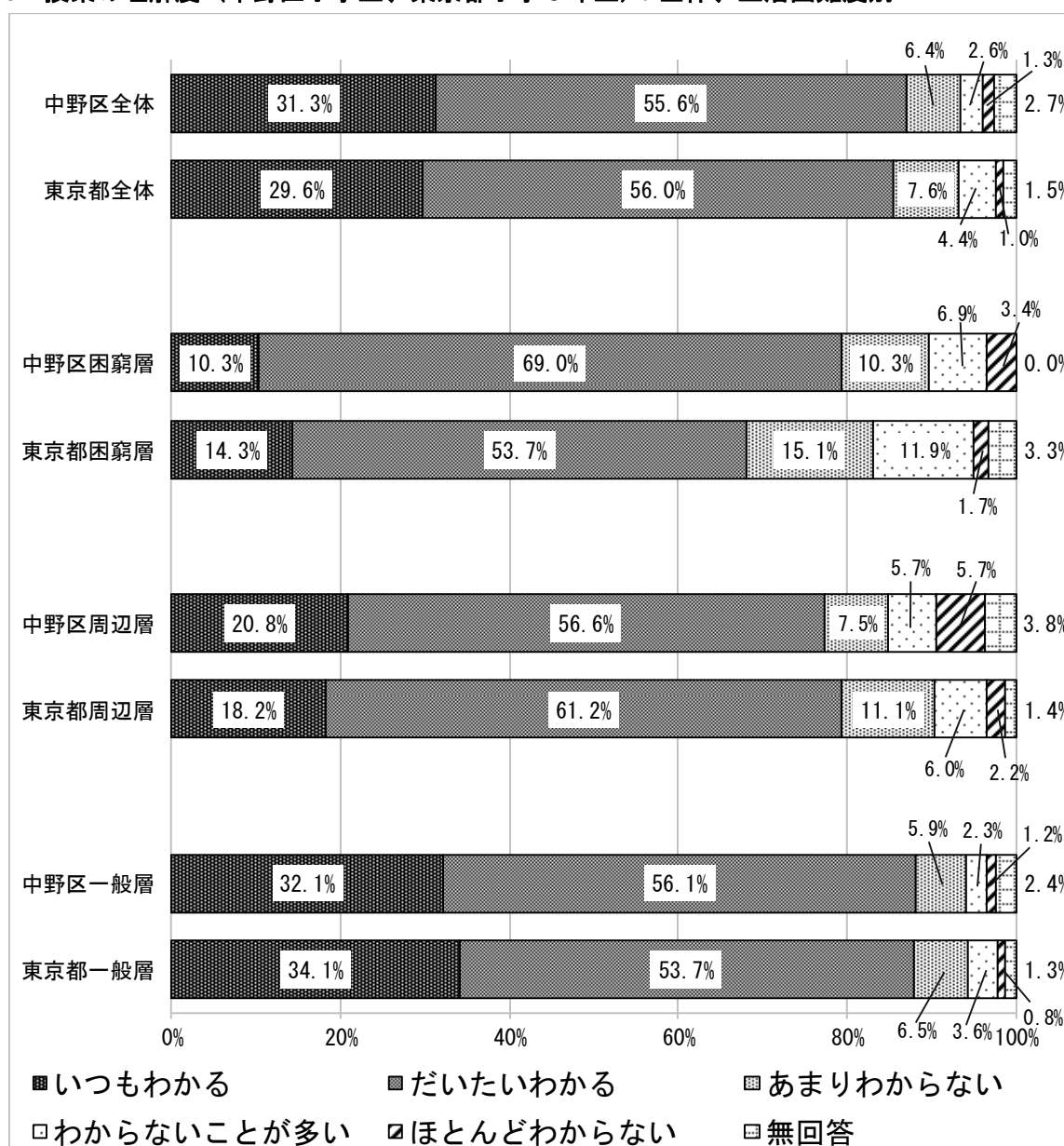
3 子どもの学び

(1) 授業の理解度（小学生）

小学生に、「学校の授業がわからないことがありますか」と聞いた。その結果、31.3%が「いつもわかる」、55.6%が「だいたいわかる」と合わせて86.9%が学校の授業を「わかる」と回答している。一方で、6.4%が「あまりわからない」、2.6%が「わからないことが多い」、1.3%が「ほとんどわからない」と回答しており、小学校の段階においても学習に問題を抱える子どもが1割以上存在する。この割合は、生活困難度別に大きな差があり、困窮層の小学生で授業が「いつもわかる」生徒は10.3%で、一般層よりも約22ポイント低い。困窮層、周辺層の約2割は、学校の授業がよくわからない（「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」）と答えている。

東京都との比較を見ると、小学生で特に差の大きい項目は、困窮層の「だいたいわかる」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「いつもわかる」、「あまりわからない」、「わからないことが多い」、周辺層の「だいたいわかる」、「あまりわからない」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表8 授業の理解度（中野区小学生、東京都小学5年生）：全体、生活困難度別



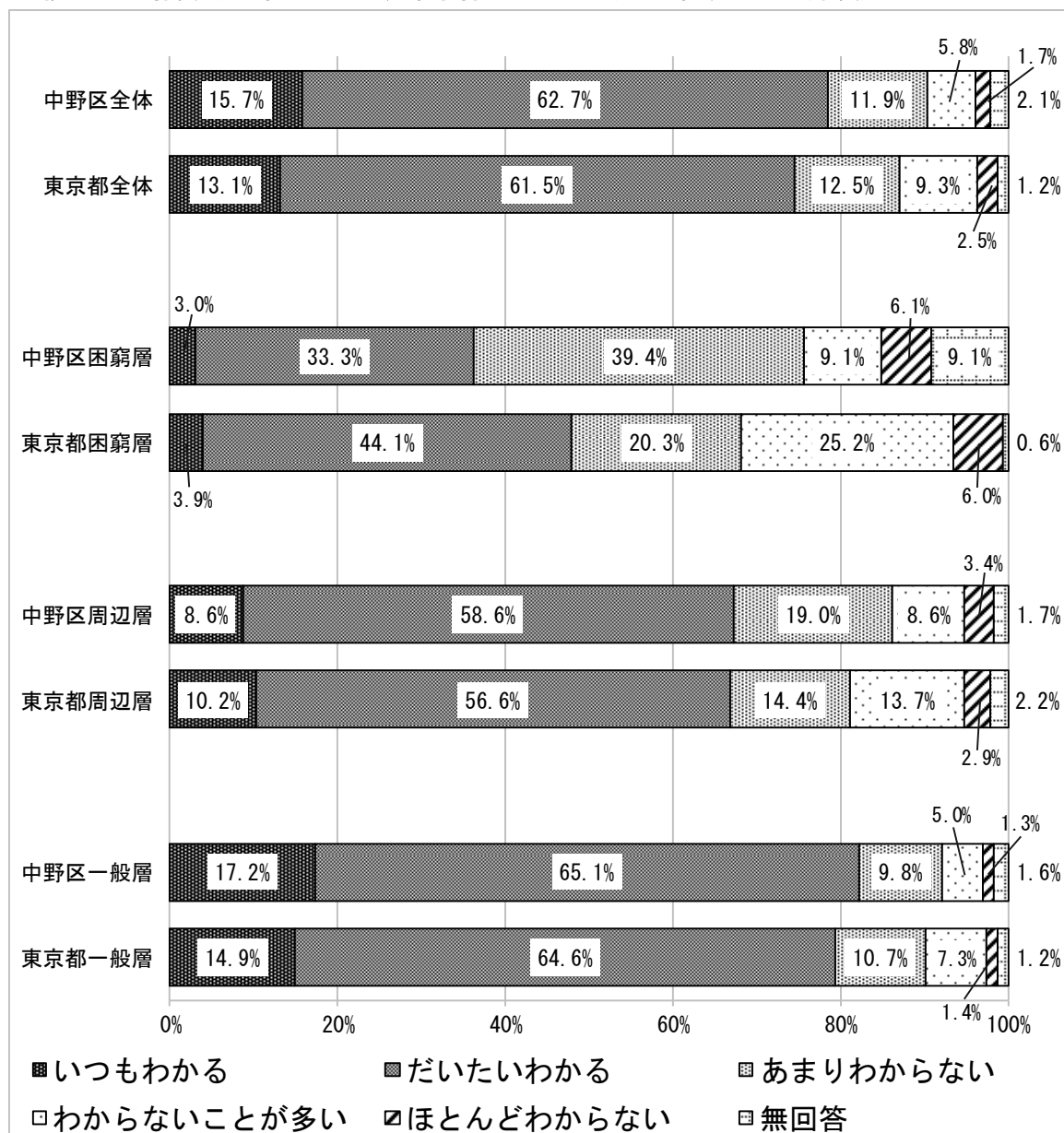
(2) 授業の理解度（中学生）

中学生になると授業がよくわからないと感じる子どもの割合は全体的に増え、全体の19.4%が「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と回答している。

生活困難度別には、一般層の82.3%は、授業が「いつもわかる」、「だいたいわかる」と回答しているのに対し、困窮層では半数以上（54.6%）が学校の授業をよくわからない（「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」）と回答している。

東京都との比較を見ると、中学生で特に差の大きい項目は、困窮層、周辺層の「あまりわからない」で中野区の方が東京都に比べて高く、困窮層の「だいたいわかる」、「わからないことが多い」、周辺層の「わからないことが多い」で東京都の方が中野区に比べて高くなっている。

図表 9 授業の理解度（中野区中学生、東京都中学2年生）：全体、生活困難度別



(3) 学習環境の欠如の状況

家庭における学習環境を見るために、小学生と中学生に「自分専用の勉強机」の所有状況を聞いた。

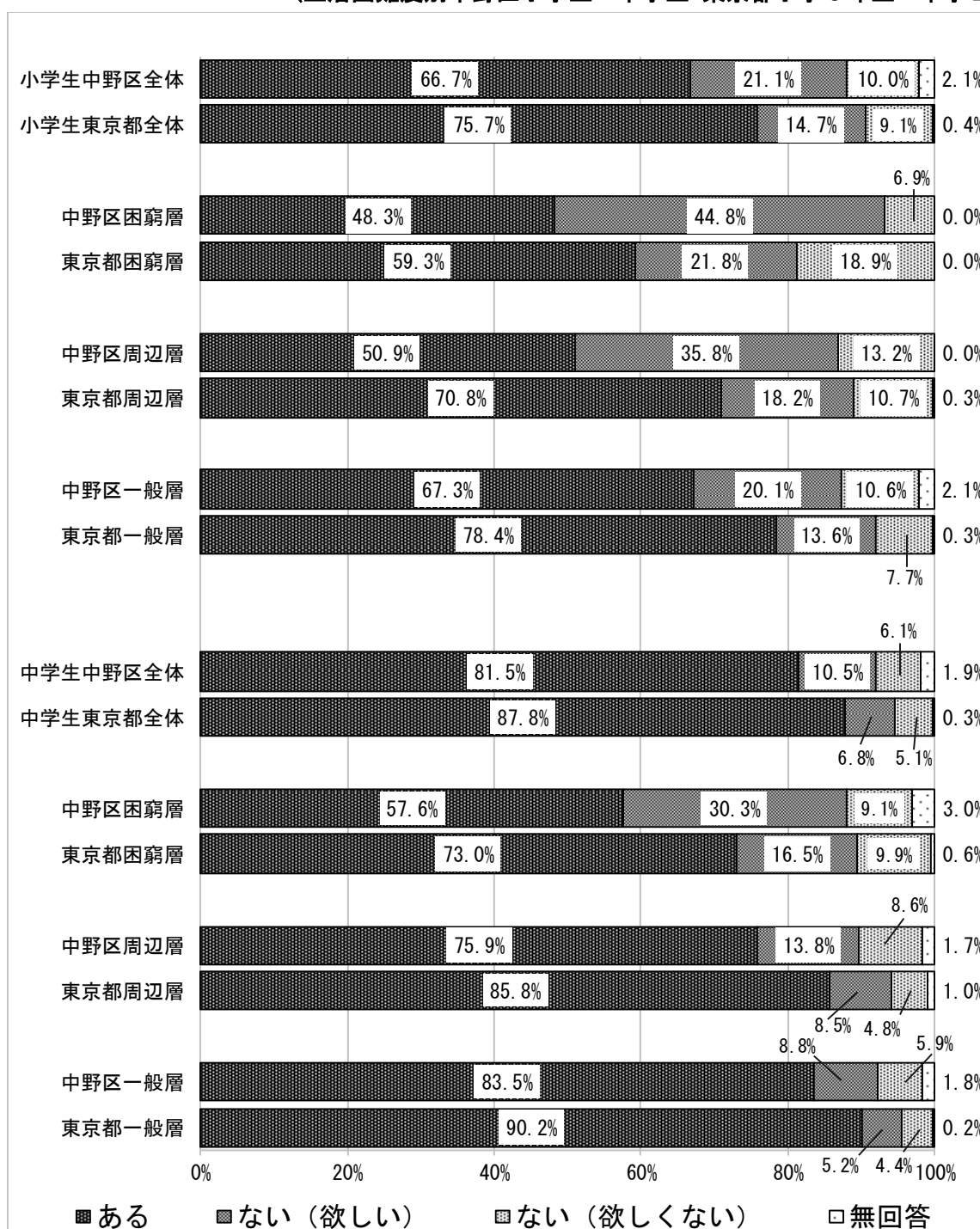
小学生は、自分専用の勉強机を持っているのは全体で66.7%であるが、21.1%は「ない(欲しい)」、10.0%は「ない(欲しくない)」としている。困窮層では、「ない(欲しい)」と回答したのは44.8%であった(一般層では20.1%、周辺層では35.8%)。

中学生は、81.5%が自分専用の勉強机を持っているが、10.5%は「ない(欲しい)」、6.1%は「ない(欲しくない)」としている。困窮層では、「ない(欲しい)」と回答したのは30.3%であった(一般層では8.8%、周辺層では13.8%)。

東京都との比較では、小学生、中学生共に中野区全体及び生活困難度別の集計において、東京都に比べて中野区の方が「ない(欲しい)」が高く、「ある」が低くなっている。

図表 10 自分専用の勉強机の有無(欠如)の状況(小学生・中学生)：

(生活困難度別中野区小学生・中学生 東京都小学5年生・中学2年生)

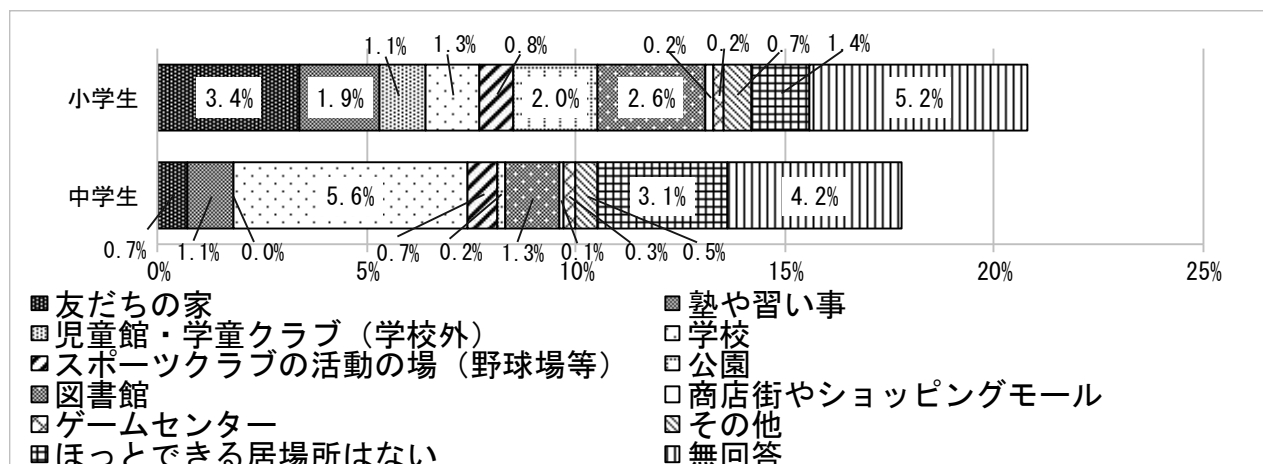


4 子どもの生活・友人関係

(1) 一番ほっとできる居場所

「一番ほっとできる居場所はどこか」子どもに聞いた。どの年齢層でも約8割が「自分の家」が一番ほっとできる場所と回答している。小学生では「友だちの家」(3.4%)、中学生では「学校」(5.6%)が2番目に高いが、3番目に高いのは小学生で「図書館」(2.6%)、中学生で「ほっとできる居場所はない」(3.1%)である。

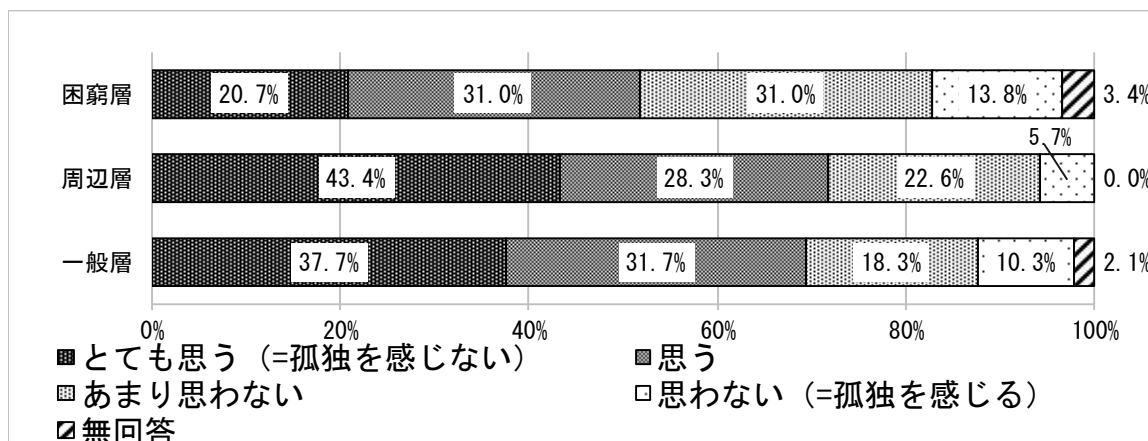
図表 11 一番ほっとできる居場所（自分の家以外）：年齢層別



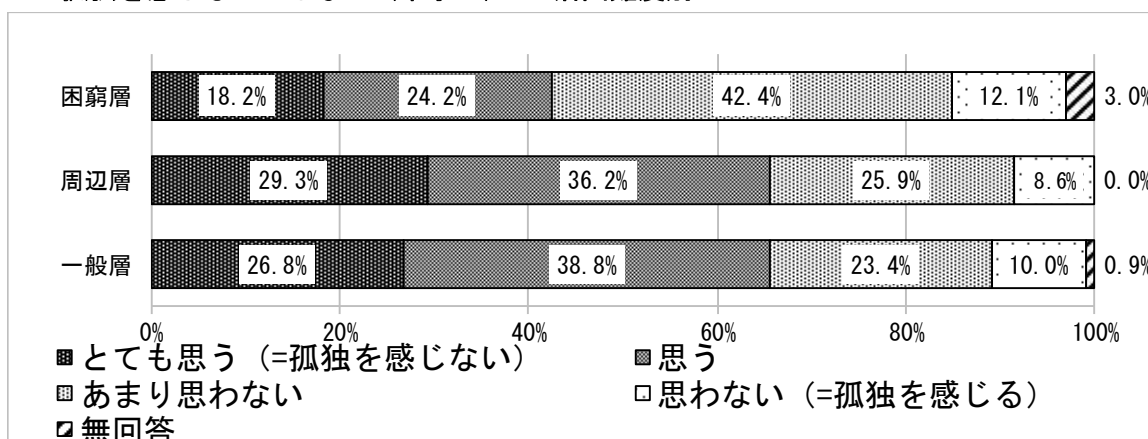
(2) 孤独感

子どもに普段考えていることとして「あなたの思いや気持ち」について聞いたところ、「孤独を感じることはないか」との問いに「思わない（＝孤独を感じる）」、「あまり思わない」と答えた子どもは、困窮層で、小学生は44.8%、中学生では54.5%であり、一般層に比べて約16～21ポイント高くなっている。

図表 12 孤独を感じることはない（小学生）：生活困難度別



図表 13 孤独を感じることはない（中学生）：生活困難度別



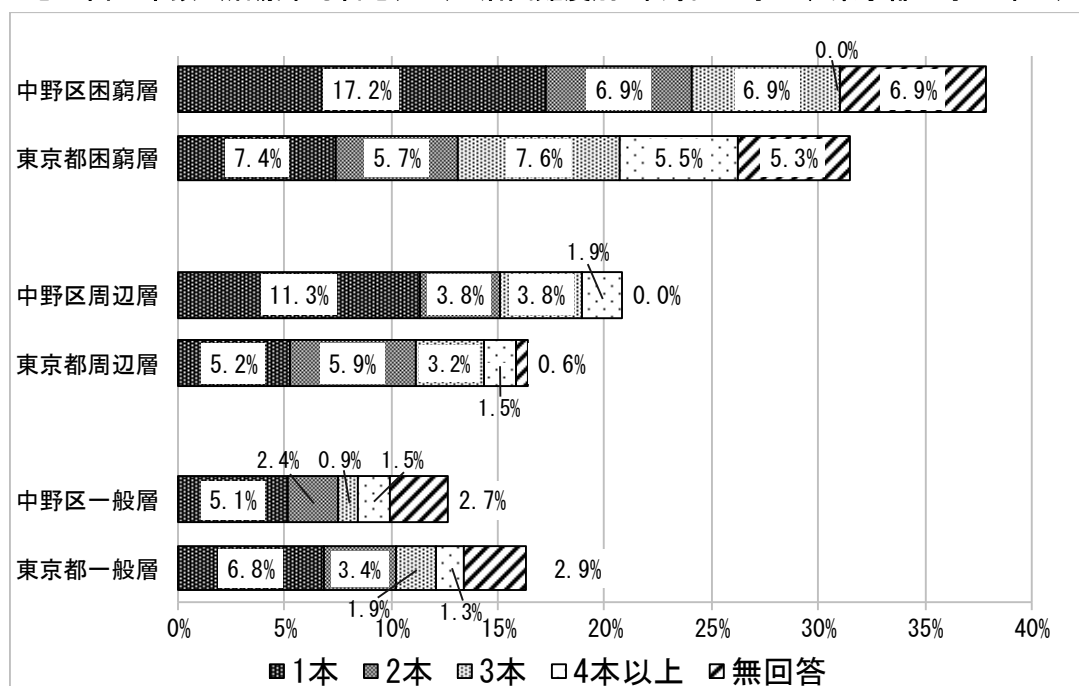
5 子どもの健康

むし歯の本数

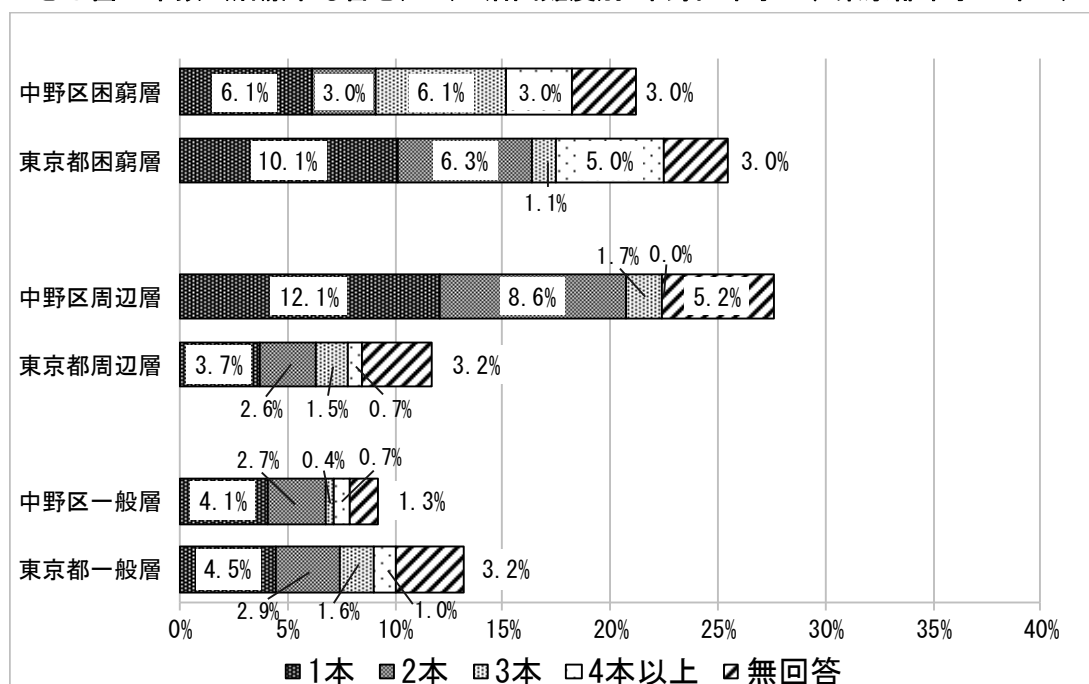
むし歯の本数を生活困難度別でみると、「むし歯がある」と答えた割合は、小学生では困窮層が31.0%、周辺層が20.8%、一般層が9.9%、中学生では困窮層が18.2%、周辺層が22.4%、一般層が7.9%となっており、困窮層と一般層を比較すると、本数に関わらず「むし歯がある」と答えた割合の差は、小学生では21.1ポイント、中学生では10.3ポイントあり、困窮層の方が高い。また、中学生では、周辺層で「むし歯がある」と答えた割合が最も高い。

東京都との比較を見ると、小学生の困窮層、周辺層において、東京都に比べて中野区が本数に関わらず「むし歯がある」と答えた割合が高くなっている。また中学生の困窮層において、中野区に比べて東京都が本数に関わらず「むし歯がある」と答えた割合が高くなっている。

図表 14 むし歯の本数（治療中も含む）：（生活困難度別 中野区小学生、東京都小学5年生）



図表 15 むし歯の本数（治療中も含む）：（生活困難度別 中野区中学生、東京都中学2年生）



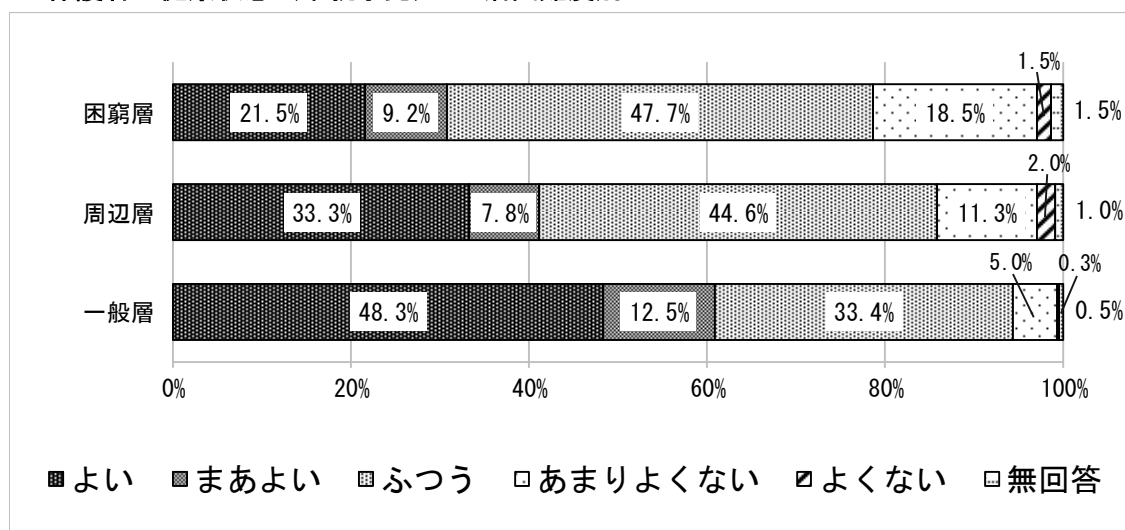
6 保護者の状況

保護者の健康状態

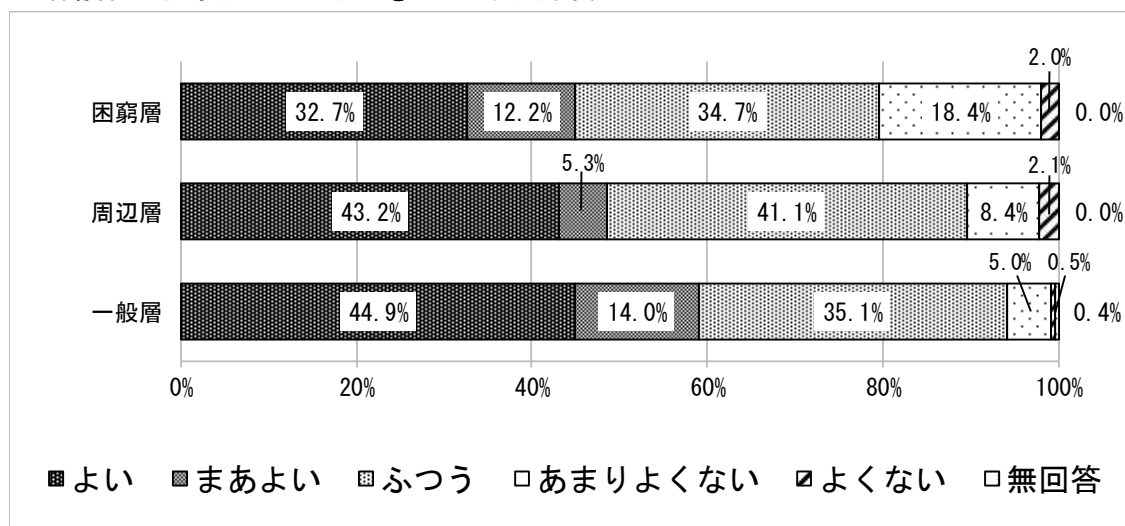
保護者の健康状態を、生活困難度別に見ると、困窮層で健康状態が「よくない」（「あまりよくない」、「よくない」と回答した保護者は、未就学児が20.0%、小学生①が20.4%、小学生②が24.2%、中学生が39.5%である（一般層では約5～7%）。また、困窮層では、子どもの年齢が高いほど、保護者の健康状態が「よくない」傾向がある。

東京都との比較を見ると、小学生②、中学生共に全ての層において中野区に比べて東京都が、自身の健康状態を「よい」と回答した割合が高くなっている。一方で小学生②での全ての層で自身の健康状態を「まあよい」、「ふつう」と回答したのは東京都に比べて中野区の割合が高くなっている。また中学生での全ての層で「あまりよくない」と回答したのは東京都に比べて中野区の割合が高く、生活困難度が上がるにつれて差は広がっている。

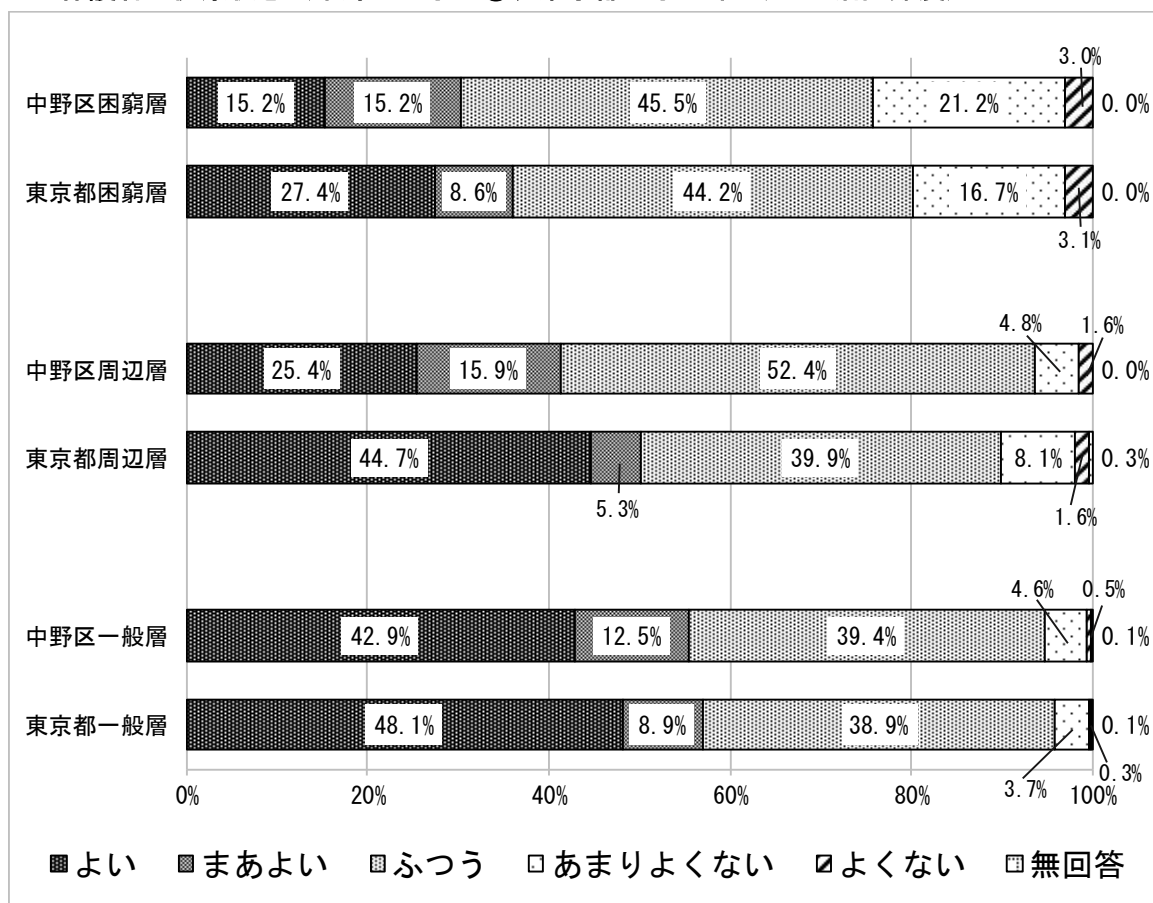
図表 16 保護者の健康状態（未就学児）：生活困難度別



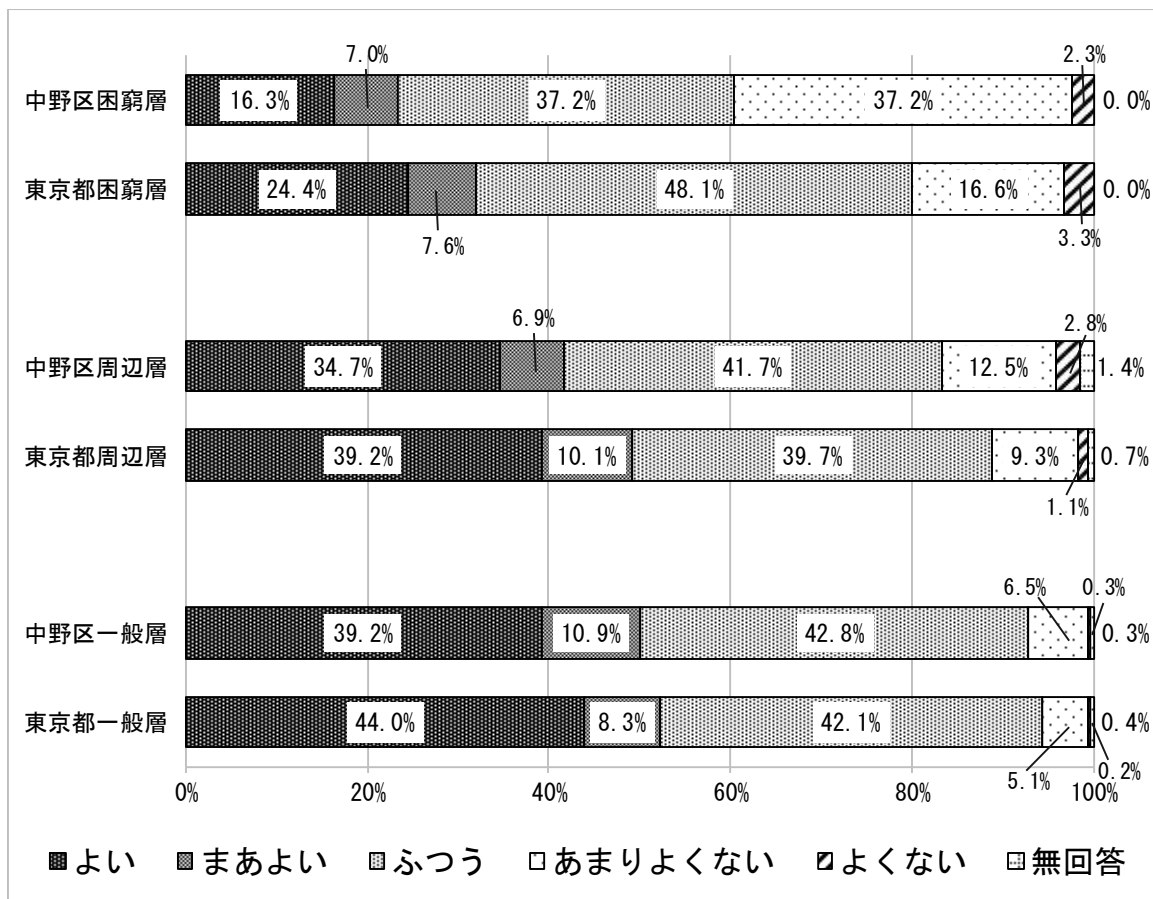
図表 17 保護者の健康状態（小学生①）：生活困難度別



図表 18 保護者の健康状態（中野区小学生②、東京都小学5年生）：生活困難度別



図表 19 保護者の健康状態（中野区中学生、東京都中学2年生）：生活困難度別



7 中野区の環境について

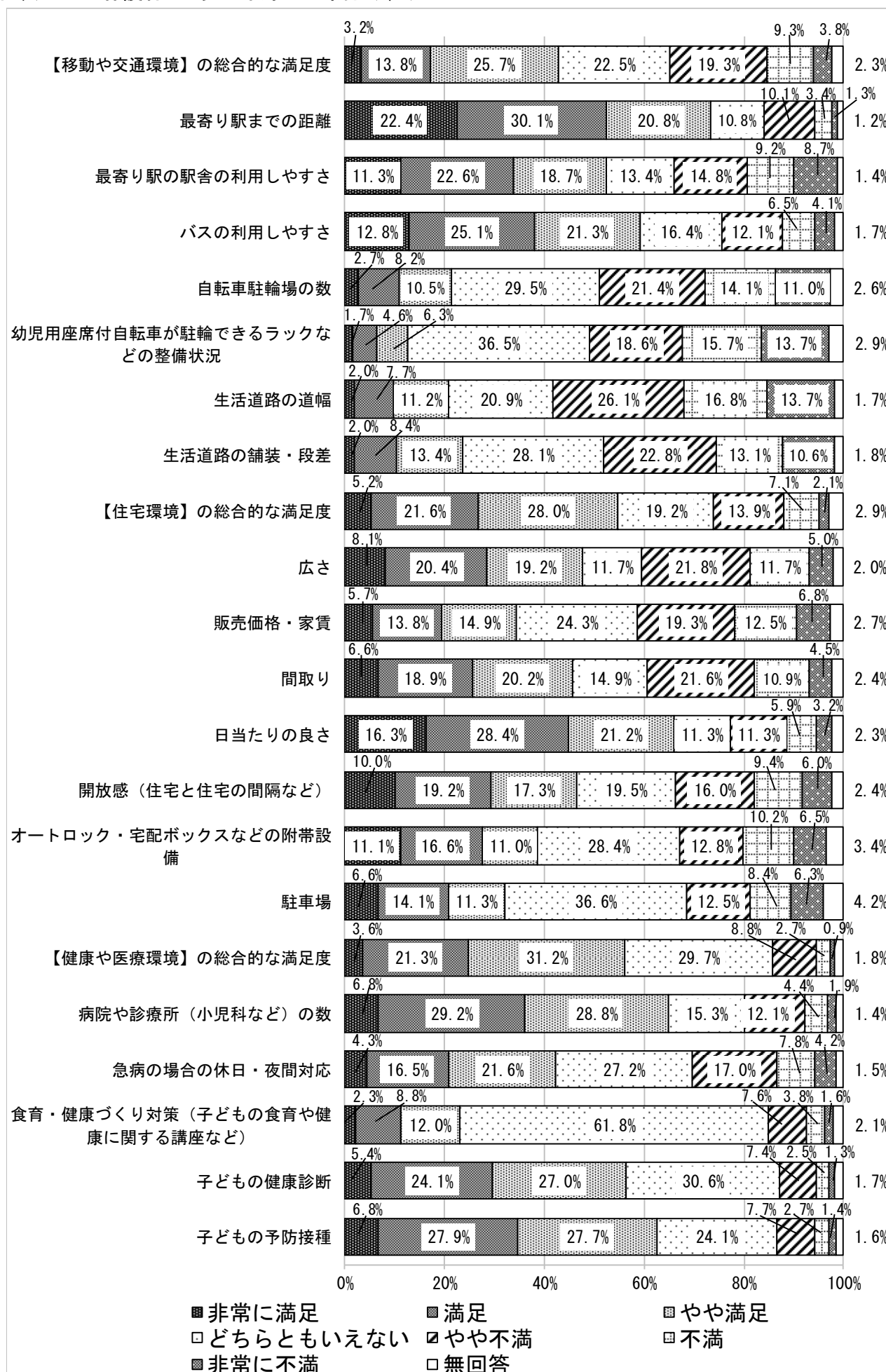
(1) 保護者から見た中野区の各種環境

保護者から見た中野区の各種環境の満足度を聞いた。個別の項目の『満足度』（「非常に満足」、「満足」、「やや満足」）は、「最寄り駅までの距離」が73.3%で最も高く、次いで「日当たりの良さ」が65.9%、「病院や診療所（小児科など）の数」が64.8%、「子どもの予防接種」が62.4%、「バスの利用しやすさ」が59.2%、「子どもの健康診断」が56.5%、「町会・商店街の催しやお祭など」が55.1%、「最寄り駅の駅舎の利用しやすさ」が52.6%、「図書館など本に親しめる場所」が52.4%と上記項目で過半数を超えている。また、総合的な『満足度』としては、「【健康や医療環境】の総合的な満足度」が56.1%で最も高く、次いで「【住宅環境】の総合的な満足度」が54.8%と過半数を超えている。

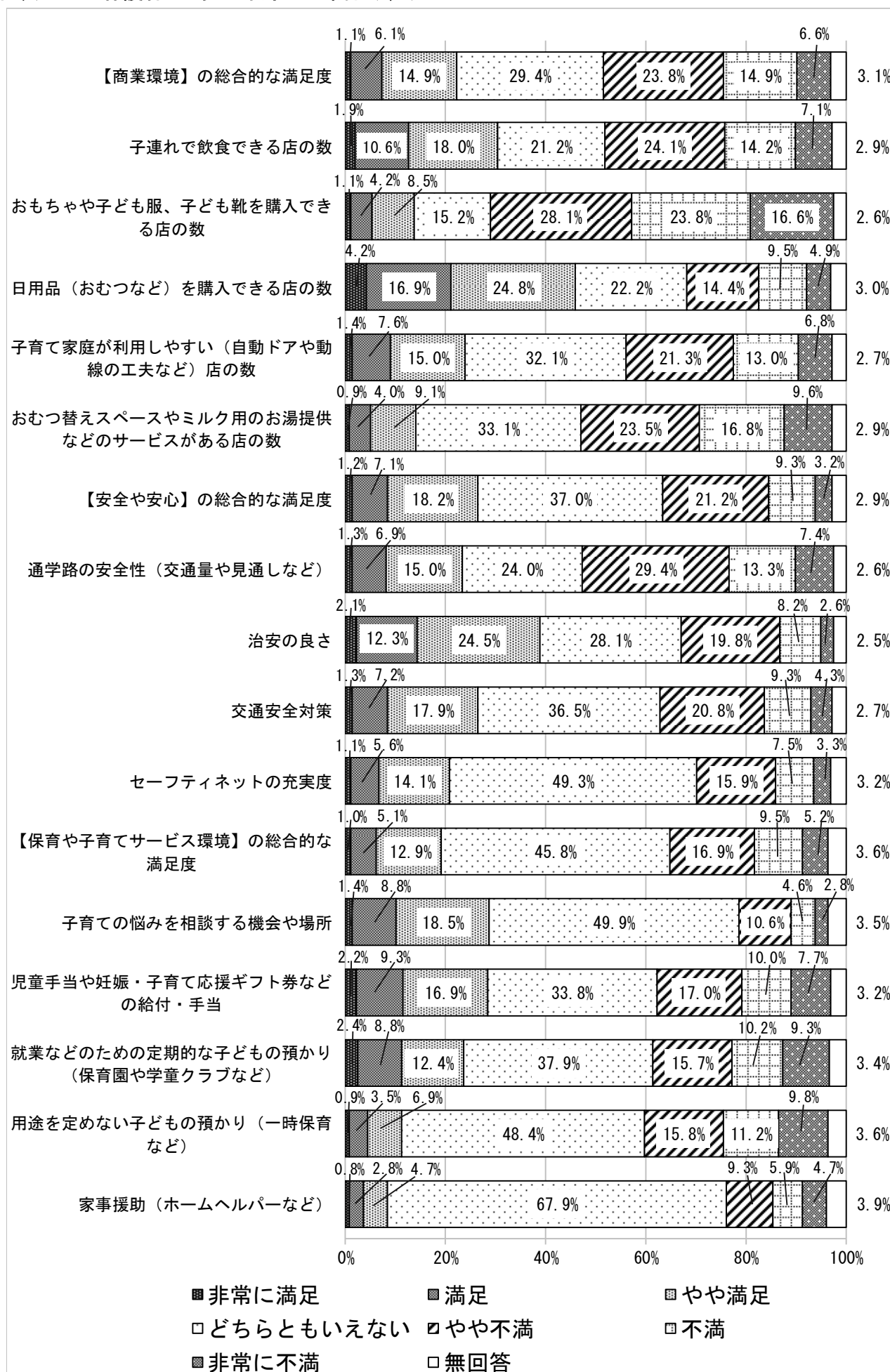
『不満足度』（「やや不満」、「不満」、「非常に不満」）は、「屋内で遊べる施設」が75.6%で最も高く、次いで「おもちゃや子ども服、子ども靴を購入できる店の数」が68.5%、「子どもが利用しやすい公園の設備（トイレなど）」が63.0%、「子どもが遊べる公園の遊具」が58.6%、「子どもがのびのびと過ごせる自然」が56.8%、「生活道路の道幅」が56.6%、「通学路の安全性（交通量や見通しなど）」、「子どもが遊べる公園の数」が50.1%と過半数を超えている。総合的な『不満足度』としては、「【遊び・憩いの環境】の総合的な満足度」が59.6%で唯一過半数を超えている。

個別の項目の『D.I.』（『満足度』－『不満足度』）は、「最寄り駅までの距離」が58.5ポイントで最も高く、次いで「子どもの予防接種」が50.6ポイント、「病院や診療所（小児科など）の数」が46.4ポイント、「日当たりの良さ」が45.5ポイント、「子どもの健康診断」、「町会・商店街の催しやお祭など」が45.3ポイントで高い。一方、『D.I.』の低い項目は、「屋内で遊べる施設」が-67.3ポイントで最も低く、「おもちゃや子ども服、子ども靴を購入できる店の数」が-54.7ポイント、「子どもが利用しやすい公園の設備（トイレなど）」が-48.1ポイントで低い。総合的な満足度は「【健康や医療環境】の総合的な満足度」が43.7ポイントで最も高く、「【遊び・憩いの環境】の総合的な満足度」が-42.8ポイントで最も低い。

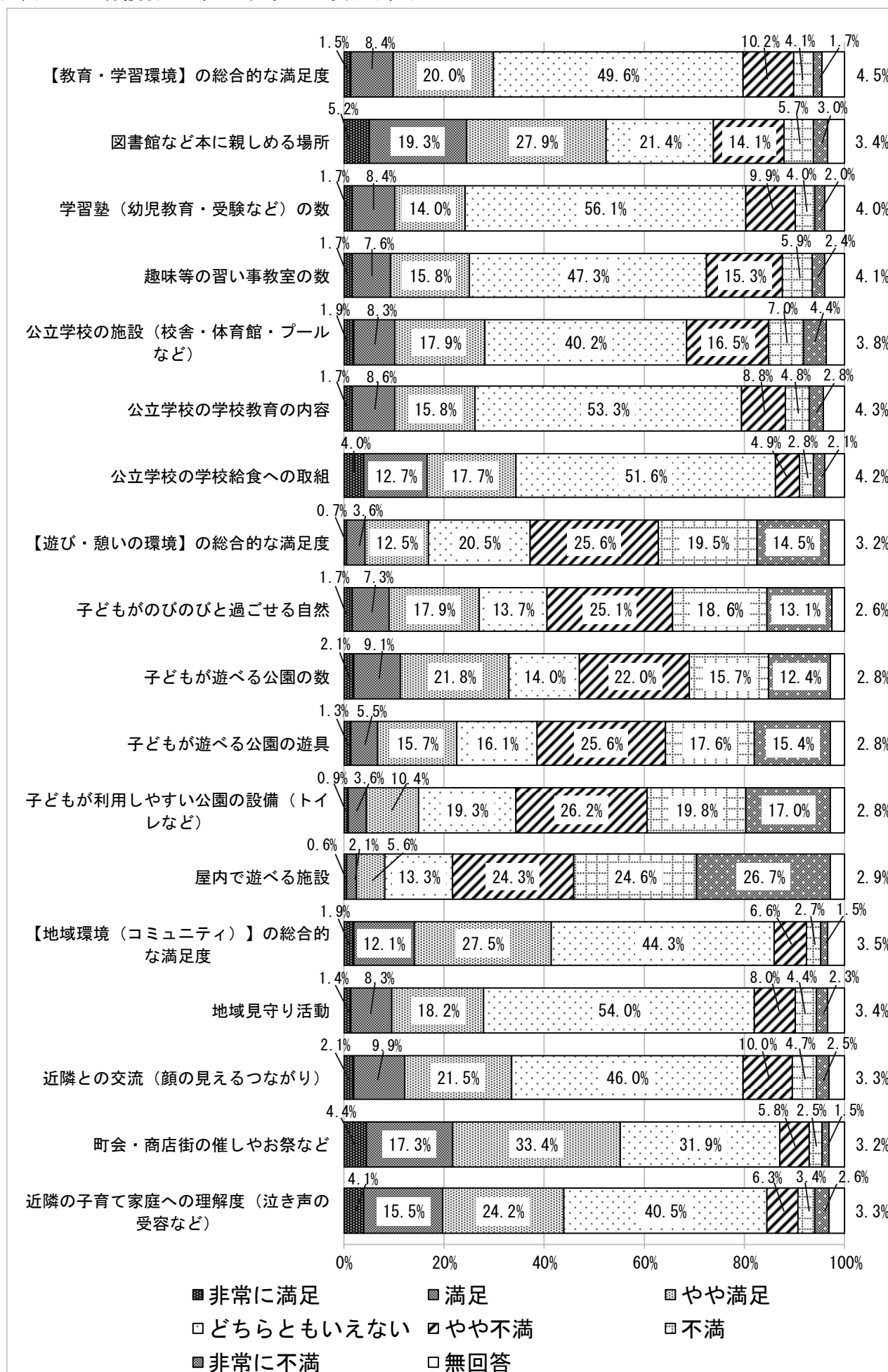
図表 20-1 保護者から見た中野区的环境 (1/3)



図表 20-2 保護者から見た中野区的环境 (2/3)



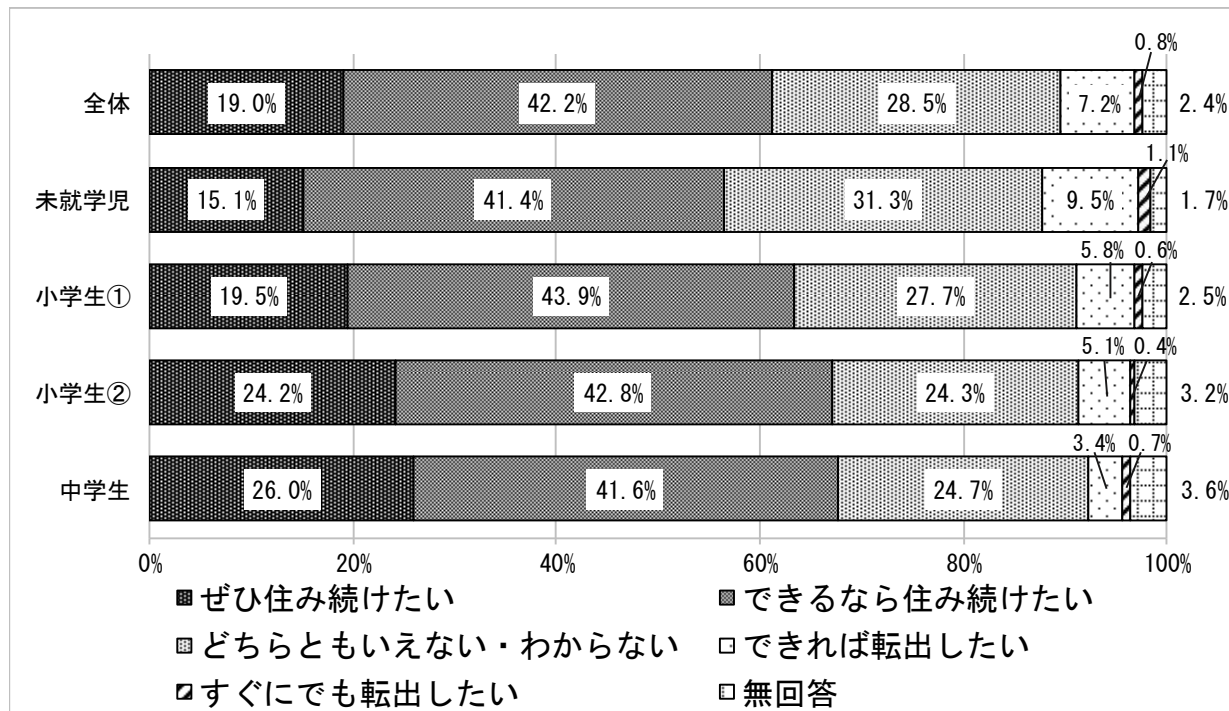
図表 20-3 保護者から見た中野区的环境 (3/3)



(2) 保護者から見た中野区への定住意向

保護者から見た中野区への定住意向を年齢層別に見ると、全体及び全ての年齢層で『転出したい』（「できれば転出したい」、「すぐにでも転出したい」）に比べて『住み続けたい』（「ぜひ住み続けたい」、「できるなら住み続けたい」）が高い。また、年齢層が上がるにつれて『住み続けたい』が高くなる。

図表 21 定住意向：年齢層別



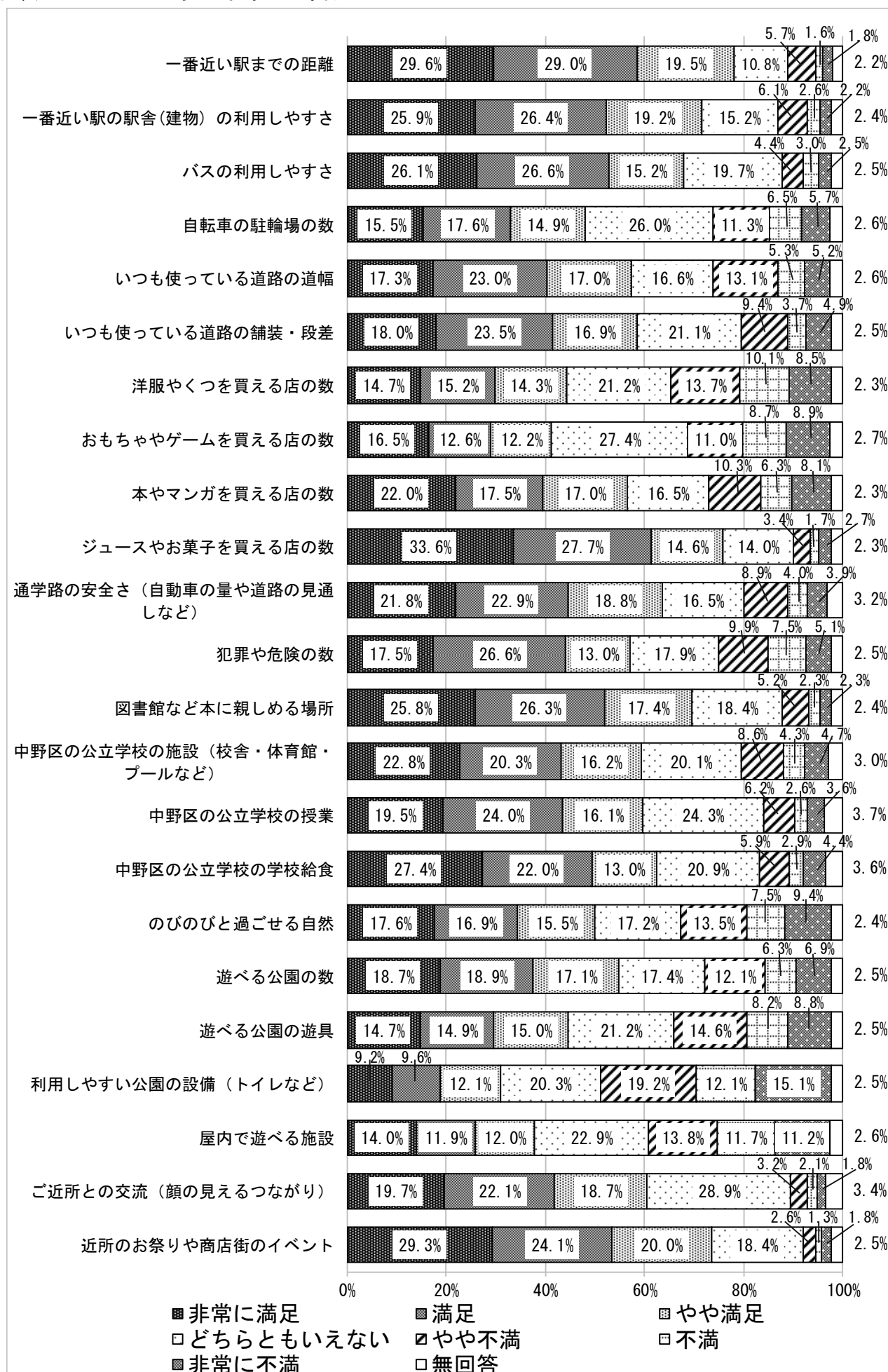
(3) 子どもから見た中野区の各種環境

子どもから見た中野区の各種環境の満足度を聞いた。個別の項目の『満足度』は、「一番近い駅までの距離」が78.1%で最も高く、次いで「ジュースやお菓子を買える店の数」が75.9%、「近所のお祭りや商店街のイベント」が73.4%、「一番近い駅の駅舎(建物)の利用しやすさ」が71.5%、「図書館など本に親しめる場所」が69.5%、「バスの利用しやすさ」が67.9%、「通学路の安全性(自動車の量や道路の見通しなど)」が63.5%、「中野区の公立学校の学校給食」が62.4%、「ご近所との交流(顔の見えるつながり)」が60.5%と上記項目で6割を超えている。また、保護者に比べて全体的に『満足度』が高い。

『不満足度』は、「利用しやすい公園の設備(トイレなど)」が46.4%で最も高く、次いで「屋内で遊べる施設」が36.7%、「洋服やくつを買える店の数」が32.3%、「遊べる公園の遊具」が31.6%、「のびのびと過ごせる自然」が30.4%と3割を超えている。

個別の項目の『D.I.』は、「一番近い駅までの距離」が69.0ポイントで最も高く、次いで「ジュースやお菓子を買える店の数」が68.1ポイント、「近所のお祭りや商店街のイベント」が67.7ポイント、「一番近い駅の駅舎(建物)の利用しやすさ」が60.6ポイント、「図書館など本に親しめる場所」が59.7ポイント、「バスの利用しやすさ」が58.0ポイント、「ご近所との交流(顔の見えるつながり)」が53.4ポイントで高い。一方、『D.I.』の低い項目は、「利用しやすい公園の設備(トイレなど)」が-15.5ポイントで唯一マイナスとなり最も低い。

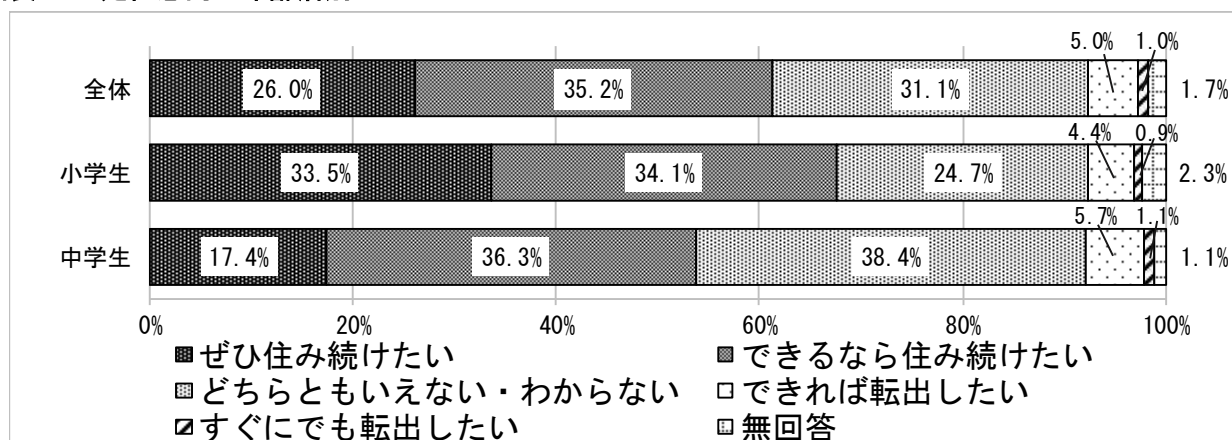
図表 22 子どもから見た中野区的环境



(4) 子どもから見た中野区への定住意向

子どもから見た中野区への定住意向を年齢層別に見ると、全体及び全ての年齢層で『転出したい』に比べて『住み続けたい』が高い。また、年齢層が上がるにつれて『住み続けたい』が低くなる。

図表 23 定住意向：年齢層別

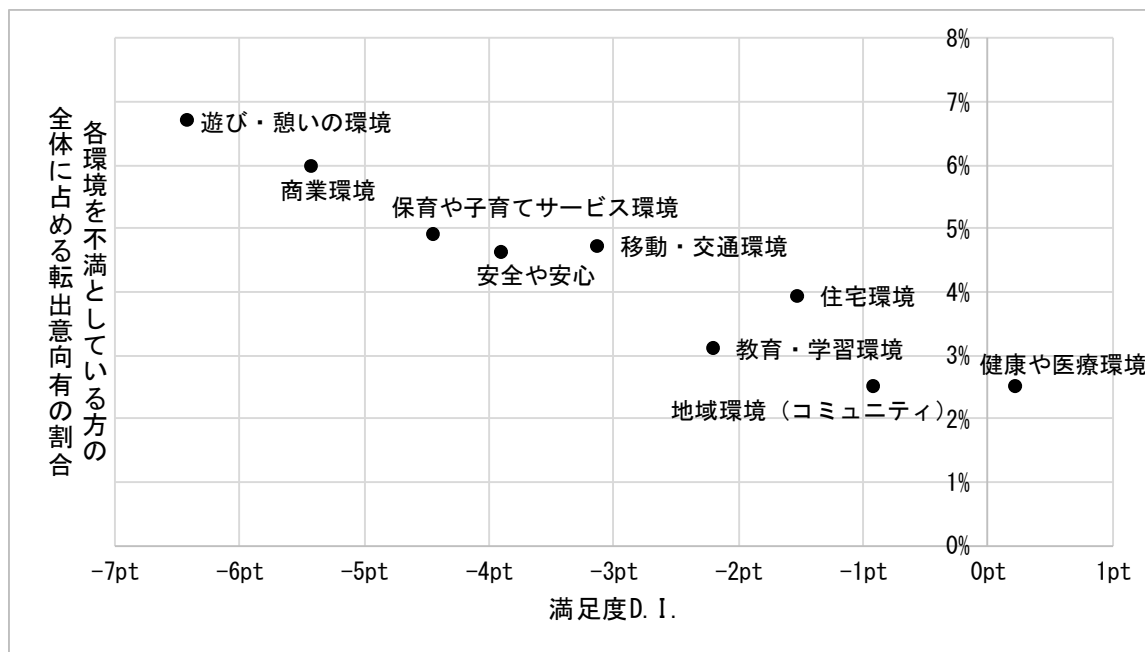


(5) 保護者から見た各環境要因と定住意向の関係

中野区の各環境要因と定住意向の関係から、各環境を不満と回答した方の全体に占める転出意向の割合を縦軸に、転出意向がある方の各環境の満足度の『D. I.』を横軸に分析した。

保護者の分析結果から、「健康や医療環境」、「地域環境（コミュニティ）」、「住宅環境」が中野区の“強み”として挙げられる。一方、「遊び・憩いの環境」、「商業環境」、「保育や子育てサービス環境」は“弱み”として挙げられる。

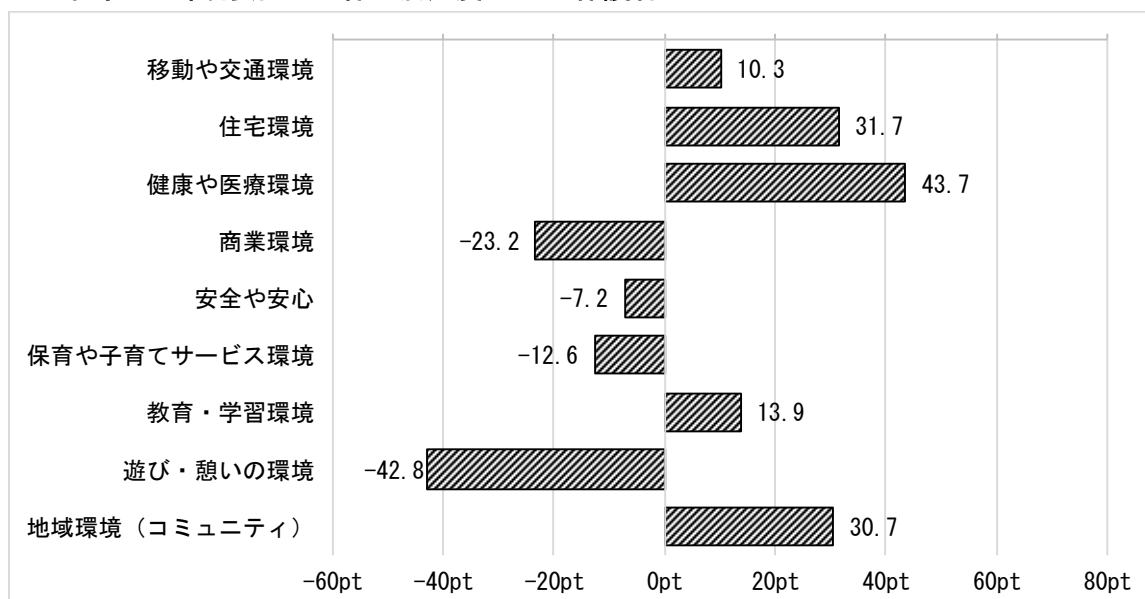
図表 24 中野区の環境要因の強み・弱み：保護者



※各環境を不満としている方の全体に占める転出意向の割合：当該環境に不満と回答し、かつ「転出したい」と回答した方の回答者全体に占める割合

全体の満足度の D. I. を見ると、「健康や医療環境」が 43.7 ポイントで最も高く、「住宅環境」が 31.7 ポイント、「地域環境（コミュニティ）」が 30.7 ポイントで続いている。一方、「遊び・憩いの環境」は -42.8 ポイントで最も低く、「商業環境」が -23.2 ポイント、「保育や子育てサービス環境」が -12.6 ポイント、「安全や安心」が -7.2 ポイントと上記 4 項目がマイナス域となっている。

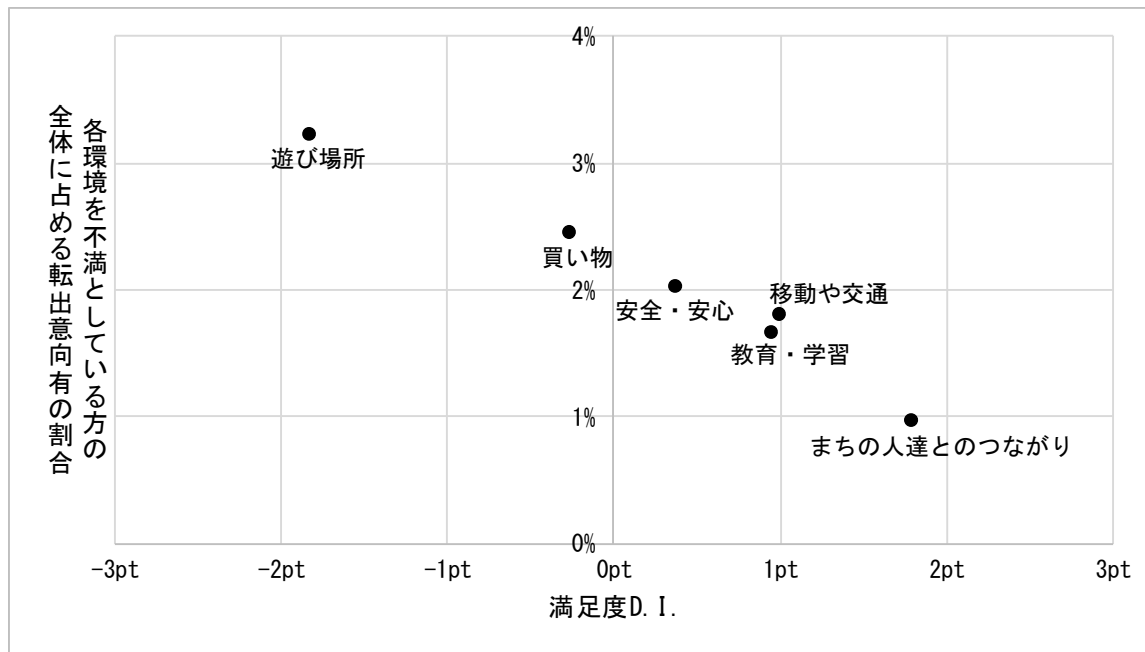
図表 25 中野区の環境要因の全体の満足度 D. I.：保護者



（６）子どもから見た各環境要因と定住意向の関係

子どもの分析結果からは、「まちの人達とのつながり」が中野区の“強み”として挙げられる。一方、保護者と同様に「遊び場所」、「買い物」は“弱み”として挙げられる。「遊び場所」（保護者は「遊び・憩いの環境」）は保護者と子ども双方で強い“弱み”として挙げられているため、改善されることにより満足度、定住意向が上がるのが推察される。

図表 26 中野区の環境要因の強み・弱み：子ども



※各環境を不満としている方の全体に占める転出意向の割合：当該環境に不満と回答し、かつ「転出したい」と回答した方の回答者全体に占める割合

全体の満足度の D. I. を見ると、全てプラス域となっており、「まちの人達とのつながり」が 60.6 ポイントで最も高く、「教育・学習」が 49.5 ポイント、「移動や交通」が 47.7 ポイント、「安全や安心」が 40.7 ポイントで続いている。

図表 27 中野区の環境要因の全体の満足度 D. I.：子ども

